

静岡県地学会西部支部ラブジョイ彗星観望会報告

著者	加藤 国雄
雑誌名	静岡地学
巻	110
ページ	51-51
発行年	2014-11-24
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00024580

静岡県地学会西部支部ラブジョイ彗星観望会報告

加藤 国雄

2013年12月に予定していたアイソン彗星が、太陽の近日点付近で崩壊し、観察できなくなりました。アイソン彗星が崩壊したというニュースを聞いたとき、この観望会はどうなってしまうのか、と思われたがまだラブジョイ彗星を観望できた。西風もあり、気温が10℃に満たない12月8日(日)早朝5時から約1時間の観望会を実施した。

幸いにも、快晴の星空に恵まれ、予定通りに観望会を実施することができた。西遠女子学園校舎の屋上に集合し、夜明け前の薄暗い中で参加者の自己紹介から始まった。13cm屈折式赤道儀をはじめ、反射望遠鏡や双眼鏡も使用した。天体が望遠鏡の視野に入ると、参加者は順番に交代で接眼レンズを見上げた。

最初にラブジョイ彗星を見た。肉眼では、ほんやりとした明かり程度にしか見えない。倍率を上げても、ほんやりとしたまま大きくなるだけであった。双眼鏡で探そうとしても、全く無理だと言うことが分かった。肉眼に対して、暫く時間をかけて撮影した写真では、確かに彗星の尾が分かる。ノイズを減らして良好な画質の写真を得るには何枚も撮影し、後でコンピュータによる画像処理を行うことであった。天文ファンが写真を撮影する理由がよく分かった。

次に火星を見た。赤いと言うよりもオレンジ色という印象であった。少しだけ大きさがあるように見えた。表面の模様や極冠は見えない。現在は火星の大接近からはほど遠い。

西の空に木星を見た。最初はシュミット型望遠鏡で見た。木星の左上に2つの衛星がはっきり見えた。ガリレオガリレイは自作の望遠鏡で木星の衛星を発見したと言うからすごい。続いて大きい望遠鏡で見た。木星の表面には、たすきを掛けたような縞模様が見え、左上に2個、右下に1個の衛星が見えた。太陽系最大の惑星とあって、迫力があつた。

6時前には東の空が明るくなり、観望会を終えた。参加者は約10名。そのうち地学会会員は3名であった。天体観測には、事前の準備から事後の片づけまで、大変な仕事がある。あらゆる仕事を含め、講師を務めていただいた今村守孝会員に、改めてお礼を申し上げます。